

- ▨ とても役立つと思う
- ▩ 少し役立つと思う
- ▧ ほとんど役に立たないと思う
- 全く役に立たないと思う

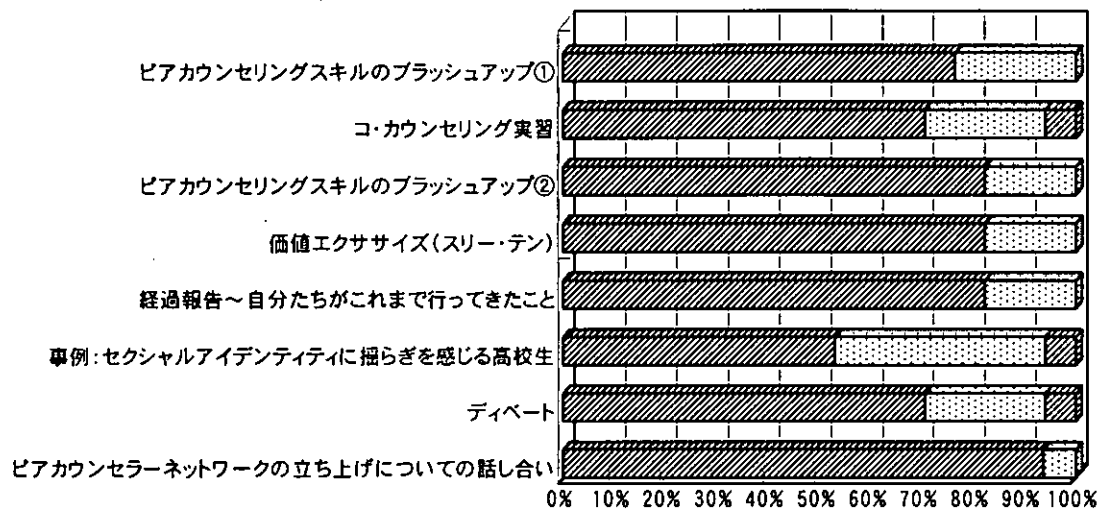


図2. ピアカウンセラー・フォローアップセミナーでの学びは今後の活動に役立つと思いますか？

表1 ピアカウンセラー養成ベーシックセミナーモデルプログラム

|       | 第1日目  | 第2日目                               | 第3日目   | 第4日目                           |       |
|-------|---|------------------------------------|--|--------------------------------|-------|
| 9:00  |   | 9:00 エクササイズ<br>9:30 コカウンセリング<br>実習 | 9:00 セクシャリティ<br>各論Ⅰ<br>～自己決定力を<br>高めるエクササイズ～ | 9:00 グループの<br>実演発表<br>1グループ30分 |       |
| 10:00 | 10:30 受付  |                                    |  |                                |       |
| 11:00 | 11:00 開講式<br>自己紹介   | 11:00 小集団を中心<br>としたピアカウ<br>ンセリング   | 11:00 セクシャリティ<br>各論Ⅱ<br>避妊・ピル                |                                |       |
| 12:00 | 昼食  | 12:30 昼食                           | 昼食   | 昼食                             |       |
| 13:00 | 13:00 ピアとは<br>13:30 ピアカウンセ<br>リングとは<br>13:45 ピアカウンセリ<br>ングの基本概念 | 13:30 エクササイズ                       | 13:00 セクシャリティ<br>各論Ⅲ<br>性感染症                 | 13:00 実演後のグル<br>ープ評価           |       |
| 14:00 | 14:00 8つの誓約   | 14:00 セクシャリティ<br>総論                | 14:00 セクシャリティ<br>各論Ⅳ<br>コンドームネゴシエイト          |                                |       |
| 15:00 | 15:30 効果的なピア<br>カウンセラーにな<br>るには<br>15:45 アクティブ<br>リスニング         |                                    | 15:00 実践企画の<br>説明                            | 15:00 閉講式                      |       |
| 16:00 | 16:00 基本的<br>向き合い方<br>16:30 オープン<br>クエスチョン                      |                                    | 16:00 各グループ<br>作業                            |                                |       |
| 17:00 | 17:00 パラフレーズ<br>17:30 休憩  | 17:00 休憩                           |  |                                |       |
| 18:00 | 夕食  | 夕食                                 | 夕食   |                                |       |
| 19:00 | 19:00 感情と<br>向き合う<br>19:20 感情と向き合<br>う4つのステップ                   | 19:00 セクシャリティ<br>各論Ⅰ<br>妊娠・出産      | 19:00 各グループ<br>作業                            |                                |       |
| 20:00 | 20:20 要約するスキル<br>統合するスキル<br>20:30 終了                            | 20:30 終了                           |  |                                |       |
| 21:00 |   |                                    |  |                                |       |
| A     | 0:00  | 5:00                               | 5:00   | 0:00                           | 10:00 |
| B     | 6:00  | 4:00                               | 0:00   | 0:00                           | 10:00 |
| C     | 0:00  | 0:00                               | 5:00   | 5:00                           | 10:00 |
| 合計時間  | 6:00  | 9:00                               | 10:00  | 5:00                           | 30:00 |

A：セクシャリティに関する知識 B：ピアカウンセリングに関する知識 C：ピアカウンセリング実践

表2 ピアカウンセラー養成フォローアップセミナーモデルプログラム

|       | 第1日目   | 第2日目                               |       |  |
|-------|--|------------------------------------|-------|--|
| 9:00  |  | 9:00 ピアカウンセリングスキルの<br>ブラッシュアップⅡ    |       |  |
| 10:00 | 10:00 受付   | 10:00 セクシュアリティ各論<br>～事例検討～         |       |  |
| 11:00 | 11:00 開講式<br>11:15 オープニングエクササイズ<br>～再会に喜びを分かち合う・再会の花束～ | 11:30 コカウンセリング実習<br>(昼食含む)         |       |  |
| 12:00 | 12:15 昼食   |                                    |       |  |
| 13:00 | 13:00 経過報告   | 13:30 ピアカウンセリングと<br>ピアエデュケーションについて |       |  |
| 14:00 |  |                                    |       |  |
| 15:00 | 15:00 休憩<br>15:30 ピアカウンセリングスキルの<br>ブラッシュアップⅠ           | 15:30 ピアカウンセリングネットワーク<br>について      |       |  |
| 16:00 |  |                                    |       |  |
| 17:00 | 17:30 休憩   | 17:00 閉講式                          |       |  |
| 18:00 | 18:00 夕食   |                                    |       |  |
| 19:00 | 19:00 価値エンカウンター演習                                      |                                    |       |  |
| 20:00 |  |                                    |       |  |
| 21:00 | 21:00 終了   |                                    |       |  |
| A     | 0:00   | 1:30                               | 1:30  |  |
| B     | 5:30   | 4:00                               | 9:30  |  |
| C     | 2:00   | 2:00                               | 4:00  |  |
| 合計時間  | 7:30   | 7:30                               | 15:00 |  |

A：セクシュアリティに関する知識 B：ピアカウンセリングに関する知識 C：ピアカウンセリング実践

資料1

## 伝達講習実施報告書

1. 実施日時

年 月 日  
年 月 日  
年 月 日

2. 伝達講習を受講したのはどのような人でしたか（年齢・学部専攻等）

( )

3. どのようなことを伝達しましたか

( )

4.

5. 受講した人の反応はどうでしたか

( )

ご協力ありがとうございました

資料 2

## ピアカウンセリング実施報告書

1. 事業名 ( )
2. 実施日 年 月 日
3. 参加人数 ( 人)
4. 実施したピアカウンセリングを受講したのはどのような人でしたか  
(年齢、学年等)

[ ]

5. 実施までのプロセス

- 1) ピアカウンセリングの企画を考える時、どのようなことを工夫しましたか。

[ ]

- 2) 企画をする上で、困ったことは何ですか、具体的に書いてください。

[ ]

- 3) ピアカウンセリング実施に向け、どのような準備をしましたか。  
(スキルを含む)

[ ]

最後に、あなたが企画、実施したピアカウンセリングで使用した資料があれば、このアンケート用紙と一緒に送って下さい。

ご協力ありがとうございました

## ピアカウンセラー養成セミナーについての評価

1. あなたがピアカウンセラー養成セミナーで学んだことは、実践で役立ちましたか  
該当するところに○をつけて下さい。

大変役立った  
少し役立った  
ほとんど  
役に立たなかった  
全く  
役に立たなかった

- ①Peer, Peer counseling とは
- ②8つの誓約
- ③基本的な向き合い方  
(アイ・コンタクト・表情・姿勢など)
- ④オープン・クエスチョン
- ⑤パラフレーズ
- ⑥感情と向き合う
- ⑦セクシャリティの概念、動向
- ⑧模擬事例：妊娠をした高校生（演習）
- ⑨ライフライン
- ⑩価値優先討議（暴力・ギャンブル・うそ等）
- ⑪避妊方法の習得（演習）
- ⑫コンドーム・ネゴシエイト・スキル
- ⑬ピアカウンセリング実践・実習  
(企画書づくりと実演)

2. セミナーで一緒になった仲間達と連絡をとりましたか。  
①はい ②いいえ

①はいと答えた方、どのような時に連絡をとりましたか

[ ]

3. ピアカウンセラー養成セミナーのプログラムについて改善した方がより実践に役立つと思われる点をできるだけ具体的に書いてください。

[ ]

4. 今後どのようなピアカウンセリングをしたいですか  
① できるだけ具体的に書いてください

[ ]

- ② また、そのために解決した方がよいと考えたことがありますか

[ ]

ありがとうございました

資料4

## 受講修了証（表）

\_\_\_\_\_  
殿

上記の者は、ピアカウンセラー養成セミナーにおいて、規定の30時間の課程を修了したことを証する。

ピアカウンセラー養成ベーシックセミナー

日時：

場所：

講師名：



(裏)

本セミナーのカリキュラムは、30時間で構成され、以下の内容を  
含んでいる。

|                 |       |
|-----------------|-------|
| セクシャリティに関する知識   | 10 時間 |
| ピアカウンセリングに関する知識 | 10 時間 |
| ピアカウンセリング実践     | 10 時間 |
| 総計              | 30 時間 |

※具体的にカリキュラム自体を書き込んでもよい

## 受講修了証 (表)

\_\_\_\_\_  
殿

上記の者は、ピアカウンセラー養成セミナーにおいて、規定の 15 時間の課程を修了したことを証する。

ピアカウンセラー養成フォローアップセミナー

日時：

場所：

講師名：

(裏)

本セミナーのカリキュラムは、15時間で構成され、以下の内容を  
含んでいる。

|                 |        |
|-----------------|--------|
| セクシャリティに関する知識   | 1.5 時間 |
| ピアカウンセリングに関する知識 | 9 時間   |
| ピアカウンセリング実践     | 4 時間   |
| 総計              | 15 時間  |

※具体的にカリキュラム自体を書き込んでもよい

## 資料5 モデルセミナーにて使用した文献

### 〈関連ホームページ〉

|                |   |
|----------------|---|
| 伸也's Home Page | <a href="http://homepage2.nifty.com/iwamuro/">http://homepage2.nifty.com/iwamuro/</a>               |
| “人間と性”教育研究協議会  | <a href="http://seikyokyo.org/">http://seikyokyo.org/</a>   |
| 日本性教育協会        | <a href="http://www.jase.or.jp/">http://www.jase.or.jp/</a>   |
| 日本家族計画協会       | <a href="http://www.jfpa.or.jp/01-topics/index.html">http://www.jfpa.or.jp/01-topics/index.html</a> |

### 〈文献〉

#### 《性教育》

- 1) 井口一成ら:若者たちの今!!—高校生の性意識と性行動 妊娠・AIDS・STD— 日本思春期学会 20周年記念誌:182-190, 2001
- 2) 岩室紳也:思春期保健の技術論ライフスキル教育としての性教育.公衆衛生. 63(7):476-479. 1999
- 3) 沖縄県教育委員会:沖縄県小・中・高等学校における性教育の実態とその指導. 85-87. 1991.
- 4) 家坂清子:私たちの行った調査から 性教育. 産婦人科治療 76(4):440-441, 1998
- 5) 家坂清子:地域における性教育を育てるために—産婦人科の立場から—.産婦人科の世界 49(12):75-77. 1997
- 6) 及川裕子:幼児期の性教育の意義. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要 第11号,1998
- 7) 古川卓:地域における性教育を育てるために—心理・カウンセリングの立場から—.産婦人科の世界 49:71-74. 1997
- 8) 笹原理会ら:大学生の性感染症に関する意識と知識の現状—性教育改革の必要性—.ペリネイタルケア 20(8):82-87, 2001
- 9) 山崎明美:日本の若年者の性感染症の現状と「性教育の課題」. Quality Nursing 8(11):945-950,2002
- 10) 山本チエコ:性教育講演会の思春期年齢層への影響力. 思春期学 17(2):278-284,1999
- 11) 松本清一:性教育と思春期保健. 思春期学 20(3):419-425,2002
- 12) 新屋信子:地域における性教育を育てるために—中学教諭の立場から—.産婦人科の世界 49:61-77, 1997
- 13) 森光敬子:学校における性教育の現状と課題. 思春期学 20(3):317-321,2002
- 14) 瀬戸致行:今後の性教育を考える—思春期クリニックの視点から—. 思春期学 19(3):285-289, 2001
- 15) 村瀬幸浩ら:高校・性教育の全貌. 東山書房, 1997
- 16) 田能村祐麒:新訂 性教育の考え方進め方. 学校図書,1995
- 17) 田能村祐麒:性教育の理念と方法. 周産期医学 20(5):655-659, 1990
- 18) 内田貞子ら:性教育での家庭・地域・学校の連携の1例—思春期のヘルスプロモーションの視点から—思春期学 19(1):52-57, 2001
- 19) 武田敏ら:思春期の避妊と性教育. 産婦人科治療. 60(2):139-144. 1990
- 20) 廣井正彦:性教育とそのあり方. 産婦人科治療 76(4):428-431,1998
- 21) 村瀬幸浩:21世紀 性と性教育のゆくへ. 大月書店.1998
- 22) 三井善止編著:生と性の教育学. 多摩川大学出版部.1999

- 23) 中山千夏監修：性と生をどう教えるか。解放出版社.2000
- 24) 木村好秀ら：家族計画指導の実際。医学書院。1998
- 25) 北村邦夫：親と教師のための性教育講座。日本家族計画協会.2000
- 26) 高橋史郎ら：性と生命の教育。現代のエスプリ 309。至文堂。1993
- 27) 安達倭雅子：暮らしの中の性教育。北海道新聞社。2002
- 28) 北沢杏子：ひらかれた性教育1～5。アー二出版。1988
- 29) メグ・ヒックリング：メグさんの性教育読本。木犀社.1999
- 30) 芦野由利子ら：ピルと避妊と性の教育。十月舎.2000
- 31) 北村邦夫ら：ピルの分かる本。ラジオたんぱ。1996
- 32) 芦田みどり：The ピル。法研.1999
- 33) 村瀬幸浩ら：買春と売春と性の教育。十月舎.2001
- 34) 河野美代子：いのち・からだ・性。高文研。1998
- 35) 木村龍雄：セクシュアリティと性・エイズ教育。大学教育出版.2000
- 36) 久保秀史：目で見る家族計画。日本家族計画協会.1998

#### 《ピア・カウンセリング、ピア・エデュケーション》

- 1) 高村寿子:ピア・カウンセリングとは。保健婦雑誌 51(9):815-822,1995
- 2) 高村寿子:ピア・カウンセリングの手法を用いた性教育の理念と方法。思春期学 21(1) : 127-131,2003
- 3) 高村寿子：ヘルスプロモーションの視点から、思春期保健対策を考える一地域におけるピアカウンセリング実践のために一。日本思春期学会 20 周年記念誌 : 176-181, 2001
- 4) 高村寿子ら:性の自己決定能力を育てるピア・カウンセリング。小学館,1999
- 5) 松沼瑞枝:思春期ピア・カウンセリングの有効性一ピア受講群と未受講群との比較検討から一。思春期学 21(1):137-139,2003
- 6) 松田寿美子:思春期保健事業「ピア・カウンセリング」を実施して。保健婦雑誌 57(2) : 98-102,2001
- 7) 松本清一、高村寿子：性の自己決定能力を育てるピア・カウンセリング。小学館。2002
- 8) 蔵本美代子,平岡敦子,下見千恵,後藤幸子,住吉史子:ピア・エデュケーションによる健康講座の実践的検証。思春期学 21(3) : 302-309,2003.
- 9) 大家さとみ:高校生におけるピア・カウンセリングの教育的効果についての一考察。学校保健研究 45(11):162-163,2003
- 10) 大嶺ふじ子,浜本いそえ,小渡清江,宮城万里子,砂川陽子,杉下知子:高校生の性知識・性意識を高めるためのピア・エデュケーションの研究。日本看護科学会誌 19(3) : 64-73,1999
- 11) 仲宗根正：地域における思春期保健一ピアカウンセラー養成講座を通して一。思春期学 19(1) : 58-63, 2001
- 12) 忠津佐和代,島津ひろ江,池田理恵,竹永愛子:ピア・カウンセリング手法を用いた思春期性教育とその実践。川崎医療福祉学会誌 12(2):259-270,2002
- 13) 望月良美:高校生の行動特性と性意識・性行動からみた性教育に関する一考察。思春期学 17(2) : 204-209, 1999
- 14) 本田壽志,坪井知美,中嶋洋,北原敬蔵:生徒が生きるピア・カウンセリング一北九州市立向洋中学校における性教育の取り組み一。Quality Nursing 8(11):921-926,2002
- 15) 和泉比佐子ら:ピア・カウンセリング実践講座・5一健康教育の新たな構築をめざして足利市での実践。保健婦雑誌 52(2) : 137-141, 1996

- 16) トレバー・コール：ピア・サポート実践マニュアル。川島書店。2002
- 17) 國分康孝ら：エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集。図書文化。1999
- 18) 國分康孝ら：エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集 partⅡ。図書文化。2001
- 19) 國分康孝：エンカウンター。誠信書房。2002
- 20) 國分康孝編 構成的グループエンカウンター 誠信書房
- 21) 國分康孝編 続・構成的グループエンカウンター 誠信書房 2000
- 22) 國分康孝・片野智治著 構成的グループ・エンカウンターの原理と進め方 誠信書房 2001
- 23) 山本銀次著 エンカウンターによる心の教育 東海大学出版会 2001
- 24) カールロジャース著 島瀬稔・島瀬直子訳 エンカウンター・グループ 創元社 1982

### 《セクシャリティ》

- 1) ミルトン・グイアモンド、アーノ・カーレン：人間の性とは何か。小学館。1989
- 2) 高村寿子：ヒューマン・セクシュアリティとはなにか。助産婦雑誌 49(12)：983-988,1995
- 3) 高村寿子：思春期の性=生 セクシュアリティの受容と意志決定。保健婦雑誌 54(6)：445-450, 1998
- 4) 高村寿子ら：性：セクシュアリティの看護。建帛社,2001
- 5) 黒川義和：助産学大系 第2版 第2巻 人間の性・生殖。日本看護学研究会出版会,1996
- 6) 住吉好雄：思春期と性。産婦人科治療 76(4)：419-423, 1998
- 7) 松本清一：女性としての性とその一生。学校図書,1994
- 8) 佐藤郁夫ら：男女の生活と意識に関する調査報告書。日本家族計画協会,2003
- 9) 針間克己：セクシュアリティの概念。公衆衛生 64(3):148-153,2000
- 10) 浅井春夫：セクシャル・ライツ入門 子どもの性的人権と性教育のための20章。十月舎,2000
- 11) 赤枝恒雄：子どものセックスが危ない。WAVE 出版,2002
- 12) 村瀬幸治ら：季刊セクシュアリティ№1~14。エイデル研究所,2001
- 13) 世界人口基金：2003年 世界人口白書。2003
- 14) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会：児童・生徒の性。学校図書,2002
- 15) 服部祥子：生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために。医学書院,2000
- 16) 北村邦夫：思春期と性の悩みとその対応。思春期学 13(2)：129-134, 1995
- 17) 北村邦夫ら：ティーンズ・ボディーブック。鎌倉書房,1992
- 18) 力武由美：思春期のセクシュアリティとジェンダーの問題。Quality Nursing 8(11): 905,2002

### 《性意識・行動》

- 1) 岸田泰子：若者層の人工妊娠中絶前後に必要なとされる援助に関する一考察。思春期学 20(2):226-272,2002

- 2) 岸田泰子ら:望まない妊娠と性感染症に関する女子大学生の知識と態度・行動一性のとらえ方、科学的知識、予防行動の関連一。思春期学 16(1):102-107, 1998
- 3) 岩室紳也:公衆衛生現場での取り組み。思春期学 19(2):160-165,2001
- 4) 金田弓子ら:大学生の不妊に対する意識と行動。母性衛生。38: 1997
- 5) 黒田淳子:若年者の性意識と性行動。産婦人科の世界 52(2):83-89, 2000
- 6) 黒島淳子:思春期の性意識と性行動。産婦人科治療 81(2):144-148, 2000
- 7) 佐藤香代:私たちの行った調査から 思春期の性意識 親・教諭との相違。産婦人科治療 76(4):442-443,1998
- 8) 佐藤龍三郎ら:〔原著〕高校生の性知識、性役割観、性行動に関する研究(第1報)。思春期学 13(3):243-248, 1995
- 9) 志賀くに子:高校3年生の性の実態とその悩みー秋田県内6校のアンケート調査からー。母性衛生 39(4):351-355, 1998
- 10) 小田洋美:中高生の性行動と避妊。助産婦雑誌 53(11):53-58, 1999
- 11) 西村憲二ら:性行動、性感染症。思春期学 18(1):76-80, 2000
- 12) 斉藤益子ら:高校生の性意識と性行動に関する実態。思春期学。17(2):263-271, 1999
- 13) 斉藤益子ら:高校生の性行動の実態と校長の意識。思春期学 18(3):257-263, 2000
- 14) 日本性教育協会:「若者の性」白書 第5回 青少年の性行動全国調査報告。小学館。2001
- 15) 日本性教育協会:青少年の性行動 わが国の中学生・高校生・大学生に関する第5回調査報告。2000
- 16) 和田実:大学生の性に関する態度と性行動の関係に関する継断的研究。思春期学 19(2):210-218,2001
- 17) 劔陽子:福岡県の一高等学校における性教育前後での性行動・性意識調査。日本性感染症学会誌 12(1):91-101, 2001
- 18) 劔陽子:北九州近郊地域における高校生の性行動・性意識調査から。Quality Nursing 8(11):897-904,2002
- 20) 宮台真司ら:<性の自己決定>原論。紀伊国屋書店。2001
- 21) 佐藤郁夫ら:性に関する知識・意識・行動について。日本家族計画協会。2003
- 22) 東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学級の性意識・性行動に関する調査報告:児童・生徒の性 2002年調査。学校図書。2002
- 23) NHK「日本人の性」プロジェクト編:データブック NHK 日本人の性行動・性意識。NHK 出版。2002
- 24) 岩室紳也:思春期の生と性 わたしのエイズ。日本家族計画協会

### 《性感染症》

- 1) 熊本悦明:女性優位の STD 時代。臨床婦人科産科 55(1):10-18,2001
- 2) 熊本悦明:日本の性感染症流行の現状。アニムス 6:33-38,2001
- 3) 厚生省保健医療局エイズ結核感染症課:感染症サーベイランス事業年報。1998
- 4) 森光敬子:若者にはびこる性感染症~文部科学省の取り組み。公衆衛生。66(5):318-320, 2002
- 5) 池上千寿子:若者の性感染。思春期学 18(4):325-328,2000
- 6) 中条洋, 小野寺昭一:性感染症と性風俗の現状。公衆衛生 66(5):312-317, 2002

- 7) 対馬ルリ子：STD. 池田書店. 2000
- 8) 北山翔子ら：エイズ、STD と性の教育. 十月舎. 2002



## 関係機関との連携によるピアカウンセリングの立ち上げと効果的普及に関する研究（栃木県編）

分担研修者 小林 雅興  
研究協力者 矢板橋チヅ子  
研究協力者 荒井 浩己

栃木県安足健康福祉センター  
栃木県健康増進課  
栃木県児童家庭課

### 研究要旨

14年度から開始した事業の見直しとくにピアカウンセラーの候補者の養成の見直しを図り、15年度は大学生年代に養成の枠を絞った。また、ピアカウンセリング受講者およびピアカウンセラーの保護者に対して調査を行なったところ、ピアカウンセリングを好ましい方法と受け止めていることが示唆された。さらに学校側にピアカウンセリング伝達が増加している状況が伺われた。今後高校での活用の具体例を蓄積し、広く高校で活用する様に勧めることの必要性を感じた。また、民間団体であるとき思春期研究会に事業委託しているクローバーピアルームの利用者も確実に増加している。反面、相談内容などの対応しきれないピアカウンセラーの出ていることから、そのサポートをさらに検討していくことが求められている。ピアカウンセラー養成事業は平成14年度から3年計画であるので、17年度以降の取り組みと事業の定着のためには今までの成果を健やか親子の指標などともからみ合わせて評価するなど、民間問わず労を惜しまない努力が必要である。このような視点を盛り込んで、関連機関と連携しながらピアカウンセリング事業を立ち上げるマニュアルを作成した。

### A 研究目的

栃木県の20歳未満の人工妊娠中絶率は、母体保護統計によると、平成7年が7.5であったのに対し、平成13年は17.5と2.3倍に急増した。

また、平成14年度に、県内の産婦人科を標榜する医療機関を、出産や人工妊娠中絶目的で受診した20歳未満の女性に質問調査を行った結果、30%が高校生であり、初交平均年齢は15.5歳であった。なお、性感染症の既往歴は22%に見られ、性行為の相手数が増えるごとに既往歴のある者の割合も増える傾向が見られた。

このような現状に対して、栃木県では、10歳代の者の性の自己決定能力を育てることを目的に、高校生を対象としたピアカウンセリング事業を実施した。

ここにその事業の立ち上げ内容を示し、現状と今後の課題について検討する。

### B 研究方法

ピアカウンセリング事業を立ち上げるに当たり、まず母子保健担当部署と教育委員会の両者において、10歳代の者の性の意識の現状を認識し、対策としてピアカウンセリング事業実施の協議を行い、ピアカウンセリングの導入を行った。

### 1 協議機関の設置

#### (1) 思春期保健対策専門部会の設置

「健やか親子21」を踏まえ、栃木県では、平成13年3月「栃木県母子保健事業指針」を

策定し、「思春期保健の向上」を重点事項に位置づけた。また、その取組として平成13年6月、栃木県母子保健運営協議会の下に「思春期保健対策専門部会」を設置し、思春期保健対策のあり方や関係機関それぞれの役割や連携方法について検討を重ね、平成14年3月に「思春期保健対策のあり方」をとりまとめるとともに「思春期健康支援ネットワークシステム」の構築や新しい性教育手法の導入などが提言された。

#### (2) 栃木県性教育検討委員会の設置

栃木県教育委員会においても、学校における性教育のあり方を検討するため、平成13年7月「栃木県性教育検討委員会」を設置し、平成15年1月に「栃木県性教育検討委員会報告書」をとりまとめた。報告書の中では、「栃木県における性教育の指針」を定めること、また、「性教育の取組の基本的方向」「性教育実践のための留意点」を明示し、人間としての在り方・生き方の性教育を実践するため、性に関する正しい知識の習得だけではなく、子どもたち

の自尊感情を育て、自分を大切にし、性に関する問題行動の自制や他者を思いやる態度・行動を育てることが必要としている。

この報告書を踏まえ、小学生から高校生まで発達段階に応じた「人間としての在り方・生き方の性教育」を進めるよう教師用リーフレットを作成し全教員に配布するなど、取組を強化した。また、ピアカウンセリングによる性教育の実践を進めることとした。

## 2 新しい性教育手法としてのピアカウンセリングの導入

### (1) ピアカウンセリングの必要性

思春期における自己の確立、身体発育や性機能の発達、人工妊娠中絶による心身への影響や避妊方法に関する正しい知識を学び、思春期の子どもたちが「性」の意義を十分理解し、自らの判断と責任において性行動を律していけるような「行動変容」につなげていく必要がある。このため、同年代の若者の自主性による新しい性教育プログラムによる支援をするため、ピアカウンセリングによる取組を導入することとした。

### (2) ピアカウンセリングの実施体制

ピアカウンセリングを県内全高校を対象に実施するため、県内を6ブロックに分割し、6保健所（健康福祉センター）で実施した。各保健所では、連絡会議（運営プロジェクトチーム）を設置し、高等学校（養護教諭）、市町村（保健師）等に対して、ピアカウンセリングが円滑に実施できるよう協力を求めた。

また、県教育委員会では、ピアカウンセリングが円滑に取り組み、合わせて学校内部へ浸透させることをねらいに実施することとし、高等学校のピアカウンセリング担当教諭を対象にピアカウンセリングに関する研修会を2回（年間）開催した。

さらに、高等学校長会議や教頭会議等管理者に対し、理解促進を図るため説明を行った。

## 3 ピアカウンセリングの立ち上げと実践

ピアカウンセリングを立ち上げるためには、①ピアカウンセラーの確保、②ピアカウンセラーを指導するスーパーバイザー、③ピアカウンセリング参加者の確保、④ピアカウンセリングの開催準備（ピアカウンセラーのプログラムを含む）の4つの柱立てが必要である。

一つの機関ですべてが対応できるものではないことから、それを担う機関との連携が必要不可欠である。その連携の流れとしては以下の4方向

からのアプローチがある。

①ピアカウンセラーの確保→募集・養成講座の開催・登録→知事部局

②スーパーバイザー→ピアカウンセラーが円滑に活動できるような側面的支援をするため、指導者を養成する。→保健所（健康福祉センター）

③参加者の確保→県教育委員会から各高校への開催通知・高校での募集→教育委員会

④ピアカウンセリングの準備→会場の確保・会場準備・プログラム作成→教育委員会・保健所（健康福祉センター）

### (1) ピアカウンセリングの企画・立案

#### ア ピアカウンセリングの実施主体

ピアカウンセリングの実施主体は、保健所（健康福祉センター）が思春期保健対策や性感染症対策として実施する場合や、教育委員会が性教育の一環として実施する場合などがある。栃木県の場合は性教育の一環として、またピアカウンセリングを受けた高校生が学校の中で活動するなど、ピアカウンセリングの手法を学校教育の中にも取り入れることを目的として、実施主体は教育委員会とし、それをサポートする形で保健所（健康福祉センター）が対応することとした。ピアカウンセリングを受けた高校生が学校の中で活動するなど、ピアカウンセリングの手法を学校教育の中にも取り入れ易いように、実施主体は教育委員会とし、それをサポートする形で保健所（健康福祉センター）が対応することとした。

#### イ ピアカウンセラーの養成

ピアカウンセリングを実施するためには、その担い手としてピアカウンセラーが必要である。そこで、まずピアカウンセラーを養成することとなる。ピアカウンセリングは、高校生を対象としていることから、その年代となるべく近い年代が望ましいため、対象年齢を16歳～20歳（高校生、専門学校生、短大生、大学生等）までとした。また、募集の条件として、養成後のピアカウンセリングに必ず協力することを条件とした。

#### 募集の条件

- ・16～20歳までの人
- ・ピアカウンセリングの理論・スキルを真剣に学びたい人
- ・ボランティア活動に意欲のある人
- ・4日間とも受講できる人
- ・ピアカウンセラーとして、年間6日程度活動できる人
- ・思春期相談センターで、年間5日程度活動できる人

この養成に当たっては、ピアカウンセラー養成講座開催事業実施要領の第3条、事業の実施に沿って、県内で思春期の人々をサポートする専門集団の「とちぎ思春期研究会」に事業委託した。この養成状況に関しては、本章の3) 各都道府県・市および大学・民間団体におけるピアカウンセリング立ち上げに関する事例集に掲載しているので参照されたい。また、養成カリキュラムは本研究のピアカウンセラー養成マニュアル作成班によるカリキュラムに準拠した。

#### ウ ピアカウンセラー登録

所定の養成コースを終了したピアカウンセラーには、修了証を交付する。また、今後の活動を円滑に実施できるよう県がピアカウンセラーとして登録し、登録証を交付する。

さらに、活動記録がわかるよう、また本人の活動意欲を促進するねらいから、活動スタンプを押印する欄を設けた。

#### エ ピアカウンセリングの実施に当たっての事前学習

ピアカウンセラー養成講座は、4日間の講座により総合的に学習するが、実際にピアカウンセラーがピアカウンセリングを実施する場合は、養成講座でシュミレーションした標準的ピアカウンセリングプログラムを参照し、自分たちが高校生に何を伝えたいかを検討し、プログラムを組み立て、パーツごとに役割分担をし、各自が責任を持って、ピアカウンセリングを進めることとなる。そのための十分な事前学習が必要であるが、学生本来の学業に支障を来さないよう、学習時間・時間帯について十分配慮することが求められる。事前学習に当たり、コーディネーターとして支援できることは、事前学習をするための施設・必要物品の提供、サポートなどである。

#### (2) ピアカウンセリングの実践

##### ア ピアカウンセラーの配置

ピアカウンセリングを実施するに当たり、ピアカウンセラーを県内6地区に配置する。事前学習に相当の労力を使うことを踏まえ、自宅から近い地区を指定することが望ましい。また、ピアカウンセラーの希望を組み入れながら地区指定をすることが必要である。

##### イ ピアカウンセリングプログラムの作成

ピアカウンセリングのプログラムについては、養成講座の中で学習し、特に最終日にはピアカウンセリングのパーツごとの実践学習をして、その中でピアカウンセラーが練り上げることとなる。

内容についても、誤りがない限りピアカウンセラーの意志を尊重し、実践させることが責任感を持たせることとなる。

ただし、ピアカウンセリングとして最も基本的な「決めつけない」、「自尊心を高める」など適切な内容であるかの確認をする必要があるため、コーディネーターのサポート機能が重要である。

#### ウ ピアルームの活用

思春期の子どもたちの悩みや相談に気軽に応じられる場として、思春期相談センター「クローバー～ピアルーム～」を平成14年10月20日に宇都宮市内に開設した。このピアルームの設置・運営に関しても、ピアカウンセラー養成事業を委託したとちぎ思春期研究会に設置・運営を委託した。基本的な設置・運営方針としてはピアカウンセラーが基軸となり、とちぎ思春期研究会の会員は環境作りを担当することである。つまり、ピアカウンセリングのスキルを学んだピアカウンセラーがオープンスペースで気軽に話し合ったり、電話相談、メール相談に応じる。時にピアカウンセラーの範囲ではない深刻な悩みや相談に応じるため、医師、保健師、助産師、看護師、養護教諭などの相談員がサポート体制をとっている。当然、相談のあった個人情報については秘密を厳守するよう、対応者に徹底している。ピアルームの設置趣およびどのようにしているかは、本報告の最後に付録として添付したので参照されたい。(平成15年度厚生労働省「食育等推進事業」活用)

### C 研究結果及び考察

栃木県では、平成13年度、14年度の2年間、県内全高校生を対象としてピアカウンセリングを実施してきた。ここでその際にピアカウンセリング参加高校での教諭の意識と、評価する視点について述べる。

#### 1 ピアカウンセリング参加高校アンケート調査の実施

栃木県では、県内の高校(公立68校、私立14校)を対象にピアカウンセリングを実施した。ピアカウンセリングを実施する際には、高校生の参加が必要不可欠であり、県教育委員会から各高校へ、また各高校内では生徒へ周知され、一定の参加が得られなければならない。

そのため、ピアカウンセリング参加高校の校長、教頭、保健指導主事、養護教諭を対象にピアカウンセリングに対する生徒への周知方法、認識度(高校生に対する教育の必要性、学校外での思春期教育の必要性、同年代の者からの相談、教育の

意義)、参加高校生の今後の活用などについて平成15年1月に調査を実施した。

調査票の回収率は91.5%であった。

ピアカウンセリングの認知状況は、知らないとする教員はほとんどなくおおよそがその知識を持っていた。年代の近い者が指導者となるピアカウンセリングの方法について約2割が専門職の方が良いと考えており、今後ピアカウンセリングの本質を十分理解していただく必要があると思われる。

学校以外の場での性教育については、7~8割が積極的な関わりを求めている。

ピアカウンセリング参加の生徒への呼びかけは、3~4割が特定の生徒に呼びかけていた。

ピアカウンセリングに対する生徒への反応については、約8割の教員が関心を持っている。

ピアカウンセリングに参加した生徒を学校での性教育に活用するかについては、校長、教頭は活用を考えられる教員が多いのに比べ、保健(体育)主事、養護教諭は必ずしも積極的な活用は考えていない傾向がみられた。学校での性教育を授業として企画される担当者として、保健(体育)主事や養護教諭は具体的な活用を考えたときに、現時点では活用が難しいと考えている様に思われ、活用に向けてのさらなる検討が必要であると考へた。

## 2 ピアカウンセリングの波及・評価

### (1) ピアカウンセリングの波及効果

ピアカウンセリングを一過性のものとならないよう、教育委員会においては、参加高校生のその後の活動につなげる必要がある。例えば、ホームルームでの報告会、学校行事(学校祭等)での広報、保健室での相談活動、教科・総合的な学習の時間での発表等。また、地域においては、ピアカウンセラーが参加した思春期保健対策が取り組めるなどの市町村単位での事業化が求められる。

### (2) ピアカウンセリングの評価方法

ピアカウンセリングの評価方法としては、①ピアカウンセリング参加高校生の変化、②高校生の保護者の変化、③参加高校生から参加していない高校生への波及、④ピアカウンセリング参加高校の教師の変化、⑤ピアカウンセラーの自身の変化、⑥ピアカウンセラーの周辺への波及、ピアカウンセリングを実施した地域の変化などが考えられる。今後ピアカウンセリングを地域へ定着させるための方策・評価を検討していく必要がある。

なお、平成14年度に実施したピアカウンセリングに参加した高校生のアンケート調査では、ピアカウンセリングを受けて変わったことは、「自分の生き方」20.5%、「性に対する考え」1

4.0%であった。また、「避妊方法を初めて知った」19.8%、さらに、興味・関心が持てたことで最も多かったのが「性について」で14.3%であった。加えて、回答のあった高校生の97.7%は、「ピアカウンセリング」を受けて良かったと肯定的に受け止めている。

### (3) ピアカウンセラー効果

若者は、悩みや不安に対し相談したい相手を「同年代の友だち」とする意向が非常に高い。このため、性について正しい知識を持ち、ピアカウンセリングスキルを持ったピアカウンセラーが友だちから友だちへと口コミにより浸透していくことが効果的、かつ若者ニーズにあった方法である。

### (4) ピアカウンセラーのステップアップ

ピアカウンセリングという若者から若者への情報伝達・スキルアップ活動を定着、拡充していくためには、ピアカウンセラー自身の活動と、それを支援する体制が確立されていくことが必要であり、またその実施状況を把握し、公表していくことが求められる。例えば、ピアカウンセラーが自主的にホームルームで発表することや、学校の機関誌へ情報を記載することなど、あらゆる機会を捉えて細やかに活動すること。また、学校、市町村や保健所(健康福祉センター)などでは、ピアカウンセラーの自主的活動をサポートするため、機材の貸し出しやアドバイスなど具体的な支援をすること。さらに、ピアカウンセリングを受講した高校生がピアカウンセリングスキルを学び、セミピアカウンセラーとして、中学生へ伝達することにより、ピアカウンセリングの輪が広がっていくこと等が求められる。そのピアカウンセラーやセミピアカウンセラーのスキルアップの機会や思春期の子どもたちが気軽に立ち寄れる場所が設置され、子どもたちの輪が広がることを期待するものである。

また、ピアカウンセリングをすすめる上で関係する機関の役割について考察する。

## 3 関係機関の役割

### (1) 地域の役割

保健所(健康福祉センター)は、思春期保健に関する総合的なコーディネーターとして、学校や教育事務所などの教育機関と連携し、ピアカウンセリングに円滑に取り組むことができるよう支援をするとともに、ピアカウンセラーを地域で活用するため、中学校、高校、市町村等と連携しコーディネートしていく必要がある。

そのため、連携の中心的機能として、保健所単